



2022

ノウフク  
アワード

NOUFUKU AWARD





## ノウフク・アワード2022に寄せて

農福連携等応援コンソーシアム

会長 皆川 芳嗣

農福連携等応援コンソーシアム会長の皆川です。コンソーシアムが活動開始して3年が経過しました。この間新型コロナウイルス感染症に社会は翻弄され続けましたし、昨年2月にロシアのウクライナへの軍事侵攻が始まってからは社会・経済両面で良いニュースがなかなか見当たらない状況が続いています。国際的に対立、分断、隔離が拡大し、人々は否応なしにその渦に巻き込まれてしまっています。「世界終末時計」は1947年に時を刻み始めて以降2023年の今が人類の滅亡に最も近づいている（あと90秒）としています。私が小学生の頃当時の米ソ両核保有国がミサイルを撃ち合う寸前までいった1962年のキューバ危機を思い出します。その時は両国の指導者にまだ良識が残っていたので危機は回避されましたが、今度はどうなるか本当に心配です。

ノウフク・アワードの表彰というおめでたい場にそぐわないお話になってしまいましたが、そんな世界の悲しく厳しい現実の中で、人々を結びつけ、社会を守り明るくしてくれる力を発揮しているのが農福連携です。今回のアワードの受賞者の方々の取り組みはどれも素晴らしいものばかりです。是非ジックリとご覧いただきたいと思います。農福連携は日本発の取り組みですが、世界各地で行われている社会的連携、包摂に向けた運動とそれこそ手を繋ぎ、全ての人々にとって一歩でも安全で安心できる世界を創るために力を尽くしたいと思います。SDGsの謳う地域共生社会を目指し皆さんもノウフク丸に乗って漕ぎ出そうではありませんか。



2022

ノウフク  
アワード

NOUFUKU AWARD

ノウ フク

2022

# ノウフク アワード

NOUFUKU AWARD  
2022

## ノウフク・アワード2022 概要

### 評価方法

今年度については、前年度と同様に「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に据えるとともに、取組主体別に評価できる仕組みを導入しました。

併せて、賞の位置付けをより明確にするため、審査員特別賞を「準グランプリ」と呼称を変更し、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」それぞれの分野から1団体等を選定することとしました。

また、前年度に引き続き、優秀賞とは別に、優秀賞のレベルには至らないものの、取組開始5年以内の団体等に対してフレッシュ賞を、高齢者や生活困窮者等との連携や、水福、林福、地域の伝統産業との連携など、新たなノウフクに取り組んでいる団体等に対してチャレンジ賞を設けています。

### 応募件数

応募期間については、令和4年8月3日(水)から10月3日(月)までとして、ノウフクWebなどを通じて広く周知した結果、全国から182団体等の応募がありました。

### 各賞の選定経過

各賞については、令和4年12月5日に審査委員会を開催し、選定しました。

グランプリは、2団体等がW受賞となりましたが、その一つである北海道の「共働学舎新得農場」は、農事組合法人として、社会適応が難しく、様々な問題を抱えるなどの多様な人たちが共同生活しながら、畜産と野菜生産、チーズ作りなどの6次産業化に取り組み、チーズは世界で数々の賞を受賞しています。

また、同じくグランプリを受賞した群馬県の「社会福祉法人ゆずりは会 菜の花」は、前年度に「人を耕す」部門で審査員特別賞を受賞されたところですが、その後も地域農業の中核を担い、高工賃を実現するなど更なる活動の推進が評価されました。

準グランプリについては、「人を耕す」の部として、三重県の「社会福祉法人朋友就労継続支援B型 Cotti菜」を、「地域を耕す」の部として、栃木県の「社会福祉法人バステル 多機能型事業所CSWおとめ」を、「未来を耕す」の部として、「社会福祉法人月山福祉会」をそれぞれ選定し、この他、フレッシュ賞・チャレンジ賞についてもそれぞれ6団体等を選出しました。

今回も多くの応募をいただいた中、残念ながら、賞に選出されなかった取組についても、地域を牽引する素晴らしい事例が多く見られ、農福連携に取り組もうとする団体等の模範となるものであり、今後に期待を抱かせるような取組が数多くありました。

ノウフク・アワードは、来年度も実施いたします。来年度もぜひご応募いただき、皆様の更なる取組の推進についてお聞かせいただけることを楽しみにしています。

## ノウフク・アワードとは

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体等・企業や個人（以下「団体等」という。）を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものです。こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に設立され、今年度で3回目の開催となります。



## 受賞一覧

### グランプリ

農事組合法人 共働学舎新得農場（北海道新得町）

社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

### 準グランプリ「人を耕す」

社会福祉法人 朋友 就労継続支援B型事業所 こっちな Cotti菜（三重県鈴鹿市）

### 準グランプリ「地域を耕す」

社会福祉法人 パステル 多機能型事業所 CSW おとめ（栃木県小山市）

### 準グランプリ「未来を耕す」

社会福祉法人 月山福祉会（山形県鶴岡市）

### 優秀賞

株式会社 サンファーマーズ（静岡県静岡市）

株式会社 笠間農園（石川県内灘町）

株式会社 ダイエイアイ DAI 就労継続支援A・B型 それいゆ（岐阜県関市）

社会福祉法人 有田つくし福祉会 早月農園（和歌山県有田川町）

社会福祉法人 E.G.F のんきな農場阿武事業所（山口県阿武町）

社会福祉法人 出島福祉村（長崎県長崎市）

### フレッシュ賞

有限会社 照沼農園（茨城県水戸市）

社会福祉法人 土穂会 障害福祉サービス事業所 ピア宮数第1工房（千葉県いすみ市）

金沢市農業協同組合（石川県金沢市）

株式会社 ココトモファーム（愛知県犬山市）

三休 —SANKYU—（京都府京田辺市）

株式会社 和光ワールド（愛媛県伊予市）

### チャレンジ賞

特定非営利活動法人 サトニクラス 就労継続支援A型サトニクラス酵母（北海道月形町）

三陸ラボラトリ 株式会社（岩手県大船渡市）

一般社団法人 イシノマキ・ファーム（宮城県石巻市）

株式会社 八天堂ファーム（広島県三原市）

大隅半島ノウフクコンソーシアム（鹿児島県大隅半島）

社会福祉法人 みやこ福祉会（沖縄県宮古島市）

# 農事組合法人 共働学舎新得農場

(北海道新得町)



生きづらさを抱える多様な方が集団生活をしながら、畜産の6次産業化に取り組むソーシャルファームであり、高品質のチーズは世界で多くの賞を受賞しています。

## 概要

- 農事組合法人とNPO法人の2つの組織により構成され、農事組合法人は農業生産・加工・販売の場、NPO法人は主に生活の場となっています。
- 農場の消臭等の環境対策として「炭」を用いるなど、日本の伝統的な知恵を生かし、その土地にあった農業生産やモノづくりを推進しています。
- 農事組合法人では、農作業、家畜の世話や畜舎の管理、乳加工品製造、木工や工芸等の作業のほか、売店やレストランに関する作業があり、農事組合法人からNPO法人に対して、チーズ製造や農作業等を委託しています。
- 多種多様な作業があるため、メンバーが自分にあった作業を選択することにより、自分の役割を見いだせるように工夫し、日々の作業をするにあたって、主体的に行動できる環境を構築しています。
- 生産した農産物は、外食事業者へ販売するほか、敷地内の売店やカフェ、インターネットで販売するなど、6次産業化にも取り組んでいます。

## 成果

### 人を耕す

農作業、家畜の世話や畜舎の管理、乳加工品の製造、木工や工芸等の作業のほか売店やレストランに関する作業を創出し、自らの意志でその日の行動を選択することで、主体性と思いやりの心が育まれています。

### 地域を耕す

交流センター「ミントル(アイヌ語で「人の行き交う場所」の意)」を開設し、チーズの販売やチーズ料理等を提供することで、多くの方々との出会いの場となっています。

### 未来を耕す

農場での経験を生かし、自身でチーズ工房を立ち上げる方、チーズ工房で働く方や就農する方等、自立した生活を実現した方を多数輩出しています。



## 「生きている」場が人と微生物の可能性を引き出す

農業法人共働学舎 新得農場

代表 宮嶋 望

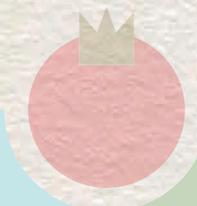
### ●多様な人を受け入れる「自労自活」の共同生活

共働学舎が始まった48年前、様々な悩みを持った人が居場所を求めやってきた。その人達が生活をしていかなければならない。必要なものは、食べ物と寝床、寒さを防ぐ建物だ。とりあえず十年前に建てだした小谷村の田んぼの真ん中にある「母屋」と呼ばれる建物で生活が始まった。それから50年弱、良く続いたものだ。それだけ必要性があったのだろうか？共働学舎が始められた年の春に僕は米国ウイスコンシン州へ酪農実習に行き、その後同州の大学で酪農学を学んだ。卒業証書を持ち帰国してすぐに新得町へ入植した。それから44年酪農、チーズづくりを中心に、無農薬、無化学肥料の農法で110ヘクタールを使い、60人が生活をしている。

### ●手しごとが価値を高める、炭埋技法を使った「生きている」工房

ゆっくりな人達と働くとき、機械の使用を出来るだけ少なくし、「手しごと」を増やして付加価値を高めよう！言う事はすぐ出来るが実際に美味しくなければ買ってはくださらない。手仕事でおいしくするためには微生物達が気持ち良く仕事をしてくれなければならない。食べ物の味を造ってくれるのは「生きている状態」と相性の良い微生物たちだ。となれば彼らが働く工房を「生きている状態」にするにはどうしたらよいか？昔から伝わる日本の環境エネルギーを高める手法を使わせてもらった。「炭埋」技法で、江戸城の下にも、正倉院の下にも入っているという。

乾電池の+極に炭素を使うが、基本の理屈を知れば「気の流れる場」を造ることが出来る。すると人も微生物も皆気持ち良く仕事してくれる牧場をつくれる。まさに「生きている」ことに感謝している。



# 社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花

(群馬県前橋市)



利用者の能力を引き出せる作業環境を創出し、  
 高工賃による障害者の自立した生活を促すことで、一般就労への挑戦を支援しています。

## 概要

- 約14㌔の農地で、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎ、キャベツ等を栽培するとともに、ライスセンターを運営し、乾燥調製作業を受託しています。
- 一部無肥料・無農薬の自然栽培により、米や野菜を生産し、安心して環境に負荷をかけない取組を広げています。
- 認定農業者であり、正組合員として地元農業協同組合に加入しています。
- 出荷規格に合わない「もったいない野菜」を地元食品企業で「ぎょうざ」にしたり、地元の矯正施設と取引して、食材になったりしています。
- 京都西陣麦酒と連携し、農福連携クラフトビール・プロジェクトに参画し、毎年ビール麦を栽培しています。

## 成果

### 人を耕す

障害者の農作業は、職員が一人一人の特性を見極めて作業に配慮し、2021年の平均工賃は約54,000円/月で、群馬県内でもトップクラスの工賃を実現しています。

### 地域を耕す

耕作面積は、取組当初の約4㌔(2014年)から約14㌔(2022年)に拡大しています。また、認定農業者として水稻苗の生産・販売やライスセンターを運営するなど、地域の担い手となっています。

### 未来を耕す

地元の保育所、小学校との田植え、稲刈り体験等の実施や、地域内外の企業と連携した商品開発を行い、持続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献しています。



## 社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花

管理者 小淵 久徳

— グランプリ受賞おめでとうございます。率直なお気持ちを教えてください。

ノウフク・アワード2021で受賞した審査員特別賞の上を目指していましたが、どエライことになったなという感じがしています。発表日に利用者みなさんとケーキを食べて喜び合いました。

— 菜の花のライスセンター事業によって離農を防いだそうです。何が続ける決心をさせたのでしょうか。

2014年に農協のライスセンターが廃止されました。使用されていた乾燥機を、菜の花の開所時に入札し、事業を引き継ぎました。特長は、米の乾燥・袋詰めを一軒ずつ個別にすること。ライスセンターの廃止と同時に「お米作りをやめよう」という農家は、ご自身で育てたお米を久しぶりに食べることができ「美味しかった。食べた孫も美味しいと言った」と喜びました。これをきっかけに「来年もお米を作る」と決心。80代半ばになった現在でも作り続けています。新規就農を増やすことも重要ですが、農家が元気に農業を維持することも重要です。

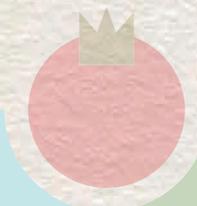
— 家庭でも包丁を使った経験のなかった利用者さんが、

刃物を使い作業をしていらっしゃいます。刃物を使えるか見極めるポイントはどこですか。

就労プログラムには、食事の自立のための調理実習があります。実習では、包丁を使うことも。最初は「使ったことない」とおっかなびっくりでも、慎重にすれば使えるのだとわかってきます。「こんなに上手に刃物を使えるなら、畑での収穫でも使えるのでは」という職員のアセスメント(評価)の下に、農作業に挑戦してもらっています。包丁に限らず、管理機(畑を耕うんする二輪の手押しタイプの農業用機械)を使う方も増えていますが、誰にでも任せられるわけではないです。見極める基準の一つは、仕事を途中で投げ出さないこと。初めから終わるまで危険がある作業でも心を保っていただける方をお願いします。

— 2021年度に目標だった平均工賃5万円を達成されました。次はどんな未来を描いていますか。

安定的に工賃5万円以上支給できる未来。法人の目標は「農業分野の総合売上1億円」です。個人的には、菜の花を「農業をしたい若手の登竜門」にさせていただくこと。障がいのある方とともに農業に取り組み、その経験をもとに独立する仕組みを作りたいです。



こっちな  
 社会福祉法人 朋友 就労継続支援B型事業所 Cotti菜

(三重県鈴鹿市)



農業とカフェ運営等の飲食事業に取り組むことにより、障害者が好きな作業、得意な作業を選択できるようにすることで作業の能率を上げ、高収入が得られる組織作りに取り組んでいます。

## 概要

- 農業部門は、ハウスの水耕栽培を中心に露地栽培でも野菜を生産しています。露地栽培の農地は、97㍍(2018年)から153㍍(2021年)と56㍍増加しています。
- 飲食部門は、2013年に「ステップアップカフェ Cotti菜」、2015年には「Cotti菜Deli」を開設し、弁当作りで障害者雇用を開始しました。売り上げは、2018年の2,149万円から2021年の2,438万円と289万円増加しています。
- 2022年には弁当・パン・総菜の製造販売とイトインコーナーを併設した新店舗を開設しています。

## 成果

### 人を耕す

就労継続支援B型事業所「わか菜の杜」及び「Cotti菜」を合わせた2021年度の平均工賃は全国平均を大きく上回る53,007円/月を達成しています。

### 地域を耕す

認定農業者として、耕地面積を97㍍(2018年)から153㍍(2021年)に拡大し、荒廃農地の解消に貢献するなど、地域農業を支える存在となっています。

### 未来を耕す

店舗内で三重県内の福祉事業所で作られた農福連携商品を販売し、地域の事業所の売り上げに貢献するとともに、ノウフクJASを取得するなど、ノウフク商品の付加価値向上にも寄与しています。

# 社会福祉法人パステル 多機能型事業所CSWおとめ

(栃木県小山市)



地域の重要な産業であった養蚕業の再興に取り組み、生産した桑の葉を使った加工食品の製造・販売等で高付加価値化を図り、工賃の向上を実現しています。

## 概要

- 多機能型事業所として、知的、精神障害者等の21名で、桑畑、落花生、野菜畑の管理、収穫に取り組んでいます。栃木県農業アドバイザーから指導を受けた職員が、農作業マニュアル等を使用し利用者に作業手順をわかりやすく指導しています。
- 約2.3畝の園地で桑の栽培を行い、6次産業化事業認定、ノウフクJASの認証を受け、桑茶等の桑の葉を使った関連商品の製造に取り組み、商品は地元の小売店やインターネット通販等で販売しています。
- 無農薬で栽培したピーズ、玉ねぎ、こまつな等を併設するレストランに供給するとともに、レストラン内の販売コーナーでは、自ら生産した野菜に加え、地元の方が生産した野菜を利用者が販売し、地域との連携を図っています。

## 成果

### 人を耕す

栃木県平均を上回る平均工賃35,000円/月を実現しており、10万円/月を上回る工賃を得ている利用者もいるなど、自立自活の実現に向けて取組を推進しています。

### 地域を耕す

桑園は開設当初の約73畝(2017年)から約231畝(2021年)に拡大し、地域の荒廃農地再生に貢献しています。また、桑の葉や実の収穫を地域住民、小学校等と協力して行うことで、地域連携の強化に取り組んでいます。

### 未来を耕す

6次産業化事業認定やノウフクJASの認証を受け、桑の葉や実を使った関連商品の製造に取り組み、地元の小売店やインターネット通販等での販売を拡大しています。

# 社会福祉法人 月山福祉会

(山形県鶴岡市)



知的障害者を中心とする利用者が、月山短角牛の飼育のほか、  
 県特産の「だだちゃ豆」や果樹の生産とジャム製造に取り組み、高工賃を実現しています。

## 概要

- 日本短角種55頭を放牧により国産粗飼料(牧草)のみで飼育し、「完全国産牧草牛」として出荷しています。
- 地域交流の一環として、作業所月山チャリティーショー等のイベントを継続して実施しています。
- 障害者は畜舎の清掃や給餌、農産物の種まきや収穫等の作業を行っています。
- 約4畧の畑と約3.3畧のハウス2棟で、県特産「だだちゃ豆」、落花生、かぼちゃ等の野菜、庄内柿、ブルーベリー、イチジク等を栽培し、ジャムに加工し販売しています。

## 成果

### 人を耕す

農畜産物そのものの「質」で勝負することで、農畜産部門8名の平均工賃は約29,000円/月(2021年)と県平均を上回る工賃を実現しています。

### 地域を耕す

農地面積は取組当初の約1.5畧(2004年)から約2.9畧(2021年)へと増加し、認定農業者として地域の担い手となるとともに、県の特産品である「だだちゃ豆」の生産に関わることで、県特産品の生産量の維持に貢献しています。

### 未来を耕す

庄内町が所有する牧場を指定管理者として借り受け、放牧に取り組むことで放置された放牧地の再生に寄与しています。

# 株式会社 サンファーマーズ

(静岡県静岡市)



天候に左右されず周年栽培を行える環境を生かして独自の出荷基準と糖度基準を設けた「アメラトマト」(高糖度トマト)を生産しています。ブランド化により安定生産を実現し、障害者を一般従業員と同一賃金で雇用しています。

## 概要

- 社内に福祉農業部を立ち上げ、直営福祉農場を新設し、障害者の直接雇用と福祉事業所への作業委託によりアメラトマトを生産しています。
- 直営福祉農場では、トマト栽培で発生した残さをたい肥化し、幼稚園と連携した食育活動の実施や、特別支援学校からの職場実習の受け入れを行っています。
- アメラトマトの生産農場と福祉サービス事業所の中間サポートを行うとともに、10か所の福祉事業所に対して、作業の一部を委託し、知的障害者、精神障害者、身体障害者(車いす利用者)が農作業に取り組んでいます。

## 成果

### 人を耕す

知的障害者3名を一般の従業員と同じ賃金で雇用しています。また、指導計画書を作成することで障害者が着実にステップアップできる環境が創出されています。

### 地域を耕す

特別支援学校の実習の受け入れや幼稚園との収穫体験等の食育活動で連携し、雇用している障害者もイベントの企画立案から実行まで関わるなど、地域の活性化につながっています。

### 未来を耕す

10か所の福祉事業所と連携し、80名の利用者が活躍しています。また、特別支援学校や福祉事業所から、これまでに21回の実習を受け入れ、実習から雇用につながるなど、持続可能な地域共生社会の実現に貢献しています。

# 株式会社 笠間農園

(石川県内灘町)



「畑でリハビリを!」という思いから施設外就労の受け入れを開始し、規模拡大するとともに、県の「農福連携促進アドバイザー」としてマッチングの促進に貢献しています。

## 概要

- こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも等をハウス58棟(1.7%)と露地(5%)で栽培しています。
- 地域の小学校から農業見学を受け入れ、保育園への食育活動、収穫体験を実施しています。
- 通年での「河北潟こまつな」の収穫・袋詰めや、一時的な繁忙期等に、それぞれの施設の特徴を活かした施設外就労を受け入れています。
- 作業療法士として病院に勤務していた経験を活かし、近隣大学と共同研究を行い、農業の持つ医学的な効用のエビデンスを追及しています。
- 石川県の農福連携促進アドバイザーとして、「農業と福祉」をつなぐ役割を担っています。

## 成果

### 人を耕す

障害者の施設外就労により、農業生産が安定することで、規模拡大する余力が生まれ、さらに請け負ってもらう仕事量が増加し、工賃が向上するという好循環を実現しています。

### 地域を耕す

農福連携促進アドバイザーとして、石川県が行う農家と福祉施設のマッチング支援に携わり、90件のマッチングにつながっています。

### 未来を耕す

幼稚園児や小学生の収穫体験、中高生の職業体験の受け入れを行い、地域農業の魅力を伝え、食への関心を高める活動を精力的に行っています。

ダイエイアイ

# 株式会社DAI 就労継続支援A・B型 それいゆ

(岐阜県関市)



岐阜県特産品「円空さといも」の栽培をJA等と連携して取り組むとともに、手間のかかる調整作業を組合員から請け負うことで、組合員1戸当たりの栽培面積が15㍍から20㍍に増加しています。

## 概要

- 約1㍍の農地において、にんにく、さつまいも、たまねぎ等を生産しています。にんにくは黒にんにくに熟成加工し、さつまいもは干し芋や焼き芋に加工しています。
- さといも生産者の組合員から岐阜県特産品の「円空さといも」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請け負っています。
- 関市内の農業者から借り受けたほ場30㍍で、自社でも円空さといもの栽培を実施しています。

## 成果

### 人を耕す

農作業に従事する障害者の中には、岐阜県内A型事業所の平均を上回る10万円/月以上の賃金を支給されている方がいます。また、有給休暇を付与するなど、障害者が働きやすい環境整備を行っています。

### 地域を耕す

荒廃農地の再生や、近隣農家が耕作しなくなった農地を借り受け、約1㍍で岐阜県特産品の「円空さといも」等の野菜を栽培するなど、地域農業を支える存在となっています。

### 未来を耕す

「円空さといも」出荷のための調製作業を請け負うことで、組合員の経営に余裕が生まれ、組合員1戸当たりの栽培面積が15㍍から20㍍に増加するなど、持続可能な地域社会の実現に貢献しています。

# 社会福祉法人 有田つくし福社会 早月農園

(和歌山県有田川町)



中山間地の段々畑を活用してみかんや野菜等の生産、加工、販売の6次産業化を図っています。定期的な喫茶の開催等で地域交流を促進。荒廃農地等の課題に協力して取り組んでいます。

## 概要

- 利用者22名と、農作物の生産、加工及び販売を含めた6次産業化を行っています。同法人内の事業所「カフェ&ベーカリー オリーブ」で製造したパンを圏域内の事業所等に訪問販売しています。
- 担い手が見つかりにくい中山間地の段々畑を活用して、みかん等の柑橘類、南高梅、山椒、野菜を生産しています。
- みかんなどの生産物や、近隣農家が生産した果物を原料としたジャムやマーマレードを製造しています。
- 地域福祉として、喫茶サロンの定期開催するほか、高齢者を対象に無料で弁当配達を行っています。

## 成果

### 人を耕す

平均工賃は、約16,000円/月(2012年)から約29,000円/月(2021年)に向上したほか、これまで5名が一般就労に移行しています。

### 地域を耕す

荒廃農地の再生や、近隣の高齢農家から農地を借り受け、経営耕地面積は約4.7% (2021年)となるなど、地域農業を支える存在となっています。

### 未来を耕す

高齢者を含めた地域雇用を進め、高齢者を対象とした無料の弁当配達を開始するなど、持続可能な地域共生社会づくりに貢献しています。

# 社会福祉法人E.G.F のんきな農場阿武事業所

(山口県阿武町)



単なる作業受託ではなく、事業所として原材料生産を行うことを重視し、生産者となることで農業の持続化が可能となるとの考えのもと農福連携を実践しています。

## 概要

- 知的・精神・発達等の障害者で冷凍ボイルカット野菜を製造し、主に山口県学校給食会へ販売することで、県内ほぼ全ての小・中学校で使用されています。
- 障害者が育てた野菜(特に規格外野菜)を使用した商品を提供していることが話題となり、食育にもつながり学校の栄養士から再発注を受けています。
- 協力農家は規格外野菜がお金になり、かつハウス内の清掃を障害者が行うなど、多くの作業に従事してくれることから作業行程が楽になり、作付け回数が増えるというWin-Winの関係を構築しています。
- 田植え時(130畝)の、ハウスからの苗出し・田植機への受け渡し・苗箱洗浄等の作業への役務提供や、一部草刈りの受託を行っています。
- 共同での商品開発や、障害者が農事組合法人の生産した稲のはぎ掛け作業を行い付加価値の高い天日干し米を販売しています。

## 成果

### 人を耕す

平均工賃は取組前の約2倍である約16,000円/月(2021年)となり、県平均を上回っているほか、毎日の活動により、地域に活気が生まれ、障害福祉に対する理解が生まれています。

### 地域を耕す

規格外野菜の仕入れにより、農家の所得向上に貢献するとともに、130畝の田植え作業への役務提供を行うなど、地域農業を支える存在となっています。

### 未来を耕す

学校給食に障害者が育てた野菜を販売することにより、県産野菜使用率の向上や食育、地産地消の推進に貢献しています。

# 社会福祉法人 出島福祉村

(長崎県長崎市)



「びわ茶」の製造等による農福連携の取組を行っており、自家農園や地域で生産される農産物を利用した原料とし加工品の開発・製造や、カフェレストラン・直売所の運営を行っています。

## 概要

- 2003年就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」を開設し、地域の特産品である「びわ」の葉を利用したお茶の製造を開始しています。
- 出島福祉村自体で福祉事業と農業を営むとともに、グループ内の農業法人(株式会社出島ファーム)や地域農業者との連携により、農業の担い手不足の解消、生産の維持による地域の活性化に取り組んでいます。
- びわ茶(商品名:長崎ゆめびわ茶)以外に、直営農園や地域で生産される農作物を利用したスイーツ、びわジャム等の加工品の製造にも取り組んでいます。
- 地域社会との連携、障害者の自立を図ることを目的に、直売所やカフェレストラン、ネット販売サイト「びわからMARKET」の開設等により障害者の自立に向けた取組を進めています。

## 成果

### 人を耕す

農作業を担う障害者の就業者数は取組当初の5名(2003年)から20名(2021年)と4倍に増加しています。

### 地域を耕す

農家の高齢化・後継者不足による、びわ畑の荒廃化と、びわの葉が廃棄されていることに着目し、びわの生産・加工やびわの葉の活用により、認定農業者として、地域農業の維持・発展に貢献しています。

### 未来を耕す

直売所やカフェレストラン、ネット販売サイトを開設することにより、地域社会との連携や、障害者の自立に向けた取組を進めています。

# 有限会社 照沼農園

(茨城県水戸市)



施設野菜の規模拡大のため障害者の就労者を増員し、作業の増加や高度化に対応できる作業アプリを開発・導入することにより作業効率の向上を図り、工賃向上につなげています。

## 概要

- 水田20畝で水稲栽培、農業ハウス6棟のうち2棟でアスパラガス、4棟で水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、ちんげん菜を栽培しています。
- 福祉事業所(就労継続支援B型)と連携し、利用者はベビーリーフの計量とパック詰め作業、リーフレタス等の袋詰め作業、水耕パネルの洗浄、水耕野菜の定植作業に携わっています。
- 地元IT企業と連携し、作業を見える化するアプリを開発し導入しています。計量作業のミスをなくすため、計量器に○×で表記されるようなシステムを開発し、作業効率の向上を図っています。

## 成果

### 人を耕す

地域のIT企業と連携し、アプリを開発するなど、障害者が作業しやすい方法を考案することで、工賃は全国平均222円/時の約2.3倍である500円/時(2021年)に向上しています。

### 地域を耕す

農福連携を実践することで、近隣農家も興味を示し、体験会を通して障害者を雇用する農家が増加するとともに、農福連携に興味を持った農家からアドバイスを求められるなど、地域に新たな連携が生まれています。

### 未来を耕す

障害者を雇用することで労働力不足が解消されるだけでなく、農作業の効率化にもつながり、新たに農業用ハウス10畝を増設するなど、農業経営の安定化につながっています。

# 社会福祉法人 土穂会 障害福祉サービス事業所 ピア宮敷第1工房

(千葉県いすみ市)



地域の牧場から菜花栽培事業を継承し、約1.5畝の畑で地域の高齢者（菜花ガールズ）の参画を得て、障害者方が活躍できる農業経営に取り組んでいます。

## 概要

- 地元の牧場経営者から事業を継承した菜花生産を、栽培、収穫、出荷、販売まで農福連携により取り組んでいます。
- 地元JAや農業事務所による栽培指導を受けるなど、連携することにより、農作業の知識、経験不足を補っています。
- 菜花の品質保持のため、長年にわたり菜花栽培に関わる地域の高齢者（菜花ガールズ）と連携しています。
- 生産性向上のため、利用者の強み、個性を活かした作業の見極めを行い、職員の育成の場として「農業で福祉が伸びる」を合言葉に取り組んでいます。

## 成果

### 人を耕す

平均工賃が取り組み当初の13,000円/月(2019年)から18,000円/月(2021年)に向上するとともに、作業を通じて体力がついた障害者1名が特例子会社に就職しています。

### 地域を耕す

年々、地域の菜花栽培農家が減少する中、JAいすみ全体の菜花出荷量の約50%である7.5トンを生産し、地域の菜花栽培の維持に貢献しているほか、近隣地域の農家への施設外就労で人手不足解消の一役を担っています。

### 未来を耕す

地元の飲食店に菜花を提供しているほか、いすみ鉄道とのコラボレーションによる菜花うどんの商品化等、地域内外との連携を深めることで、持続可能な地域社会の実現に貢献しています。

# 金沢市農業協同組合

(石川県金沢市)



農家、集出荷場と福祉事業所とのマッチングを行い、双方のパイプ役として、作業内容や労働条件の確認、日程調整、作業指導等の支援を行っています。

## 概要

- JA金沢市管内の農家やJAの野菜集出荷場と障害福祉サービス事業所に農福連携のメリットを説明し、マッチングを図っています。
- マッチングにあたり、事前に農家や集出荷場での作業内容と、障害者ができる作業内容、労働条件等を確認し、連携先を選定しています。
- 障害者の主な作業として、田植えの際の肥料・苗運搬、育苗箱洗浄、収穫された野菜の集荷の手伝い、洗浄・計量・選果・袋詰め等を行ってもらっています。
- マッチング後は、双方の作業日程・人数の調整、障害者が作業を覚えるための作業マニュアル(写真入り)作成、現場での作業説明等を行い、継続的な連携に向けた支援を行っています。

## 成果

### 人を耕す

通年での作業の確保により工賃が向上するとともに、障害者に多様な作業を紹介することで、労働意欲を高めています。

### 地域を耕す

農福連携を進めたことで、農家が労働力を確保できるようになり、経営全体の労働生産性が向上するとともに、耕作面積の維持・拡大に貢献しています。

### 未来を耕す

広報誌でJA管内の農福連携の取組を紹介することで、他のJAにも波及し、広がりを見せています。

# 株式会社 コトモファーム

(愛知県犬山市)



「障害がある人もない人も一緒に働ける居場所を創る」ことを目指して、6次産業化をベースとした農福連携に取り組んでいます。

## 概要

- 農業部門は、農地中間管理事業を活用して引き受けた農地6㌃と、遊休農地を再生した0.4㌃を含む、8.3㌃で水稻を栽培しています(2021年度、約30トンを生産)。
- 製造部門では、市内3ヶ所の工房で製粉した米粉を原料に100%グルテンフリーの米粉バウムクーヘン等の加工品を製造しています。
- 販売部門は、愛知県内計10店舗で米粉バウムクーヘン等の自社開発スイーツを販売しています。
- 米の生産から加工品の製造・販売まで自社で一貫して行うことにより、障害者一人一人の特性に合わせた生産、製造、販売それぞれの部門で働ける場を提供しています。

## 成果

### 人を耕す

米の生産、加工品の製造、販売までを一貫して行うことで、障害者の雇用の場を創出しており、障害者の賃金は35万円/年(2019年)から132万円/年(2021年)に増加しています。

### 地域を耕す

認定農業者として、遊休農地の再生や、営農を辞める地域農家から農地を借り受けるなどにより、8.3㌃で水稻栽培に取り組むことで、地域農業の維持・発展に貢献しています。

### 未来を耕す

JA西三河と連携して地域農産物を使ったメニューを提供するほか、名古屋鉄道と連携して犬山市桃太郎神社で「桃太郎マルシェ」を共催するなど、地域内外との連携を深めることで、持続可能な地域社会づくりに貢献しています。

# 三休 —SANKYU—

(京都府京田辺市)



障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来を目指し、  
荒廃農地を活用して農業を主軸とした取組を進めています。

## 概要

- 精神疾患者、知的障害者、身体障害者等、様々な障害特性を持つ25名と農業の6次産業化に取り組んでいます。
- 荒廃農地を再生して、万願寺とうがらし、ハーブ等を生産し、JAや道の駅、飲食店に出荷しています。
- 生産したハーブを原料としたスイーツやドリンクを提供するカフェを運営しています。
- 野菜が入場料の音楽イベントや地域の大学と協働したイベントの開催、民間企業等と連携し、ローゼルを用いたビールの開発を行っています。

## 成果

### 人を耕す

農業を主軸とした取組により、6名が一般就労や就労移行支援事業所等に移行しています。

### 地域を耕す

荒廃農地を再生し、地域の特産品である万願寺とうがらしを栽培するなど、地域農業の維持・発展に貢献するとともに、地域の企業、大学等と連携することで、地域の活性化につながっています。

### 未来を耕す

ローゼルを使用したビール「THANK YOU FOR THE MUSIC」を民間企業や飲食店と共に開発し、ジャパングレードピアアワード2022で銀賞を受賞するなど、工賃向上に向けた加工品の付加価値向上を図っています。

# 株式会社 和光ワールド

(愛媛県伊予市)



「誇れる産品を農場からテーブルへ」を理念に、誰もが活躍できる地域社会を目指し、農福連携により生産したきくらげを使った商品開発等、企業との連携の輪を拡大しています。

## 概要

- 奥内子の天然水を利用したこだわりのきくらげを、サイズ分け等の多くの手をかけることにより付加価値を高めることに成功し、出荷量を伸ばしています。
- 多数の企業と連携し、きくらげの商品を開発しており農福連携の輪を広げています。
- 地域の農業高校を農福連携の1日体験に招くことにより交流を図っています。
- 障害を持つ方にも商品パッケージをデザインしてもらうなど、得意分野を活かした取組を展開しており、2021年は7名の障害者の方が就業しています。

## 成果

### 人を耕す

障害者がそれぞれの得意なことを活かせる仕事を取り入れ、目標設定シートや、自己分析チェックリスト等を活用し、自発性や仕事のパフォーマンス向上を図ることで、賃金向上を実現しています。

### 地域を耕す

地域の農業高校を農福連携の1日体験に招き、交流を図ることで、農福連携の認知を促す契機を創出しています。

### 未来を耕す

ノウフクJAS取得により、付加価値の向上が図られたことで、2021年から2022年の1年間で販路が3倍となるなど、取引の増加につなげています。

# 特定非営利活動法人 サトニクラス 就労継続支援A型サトニクラス醸房

(北海道月形町)



障害特性に応じてチームを編成し、野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年の作業を安定的に生み出しています。

## 概要

- 知的・精神・身体障害を持つ7名の利用者が、約1畝の農地及び加工場で、野菜生産や漬物製造等を通年で行うほか、月形町内外の農家7戸に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事しています。
- 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて1組2～3名のチームを編成しています。また、漬物製造工程を細分化し、利用者を割当てています。
- 農林水産省の交付金を活用し、乾燥野菜の開発、農業者が必要とする労働力の調査、障害福祉の知見を有する農作業指導者の育成等、取組拡大の努力を継続して行っています。

## 成果

### 人を耕す

チーム作業により、収穫適期の野菜の見落としを防ぐなど、作業の正確性が向上するとともに、漬物製造工程の細分化により、生産性の向上につながっています。また、事業所を退所した障害者の半数以上が一般就労に移行しています。

### 地域を耕す

約1畝の農地でなす・きゅうり・だいこん等の野菜を生産するとともに、漬物等の製造、直売所の運営、冬場の除雪作業受託等、通年の作業を確保し、障害者の働く場を創出するだけでなく、地域を支える存在となっています。

### 未来を耕す

「つぎがた農福交流推進協議会」を設立し、町内の生活困窮者の農業体験を受け入れるなど、持続可能な地域共生社会づくりに貢献しています。

# 三陸ラボラトリ 株式会社

(岩手県大船渡市)



これまで廃棄されていた規格外のホヤを、障害者が加工することで商品化を実現するなど、障害者の活躍の場の創出や工賃及び賃金の向上に取り組んでいます。

## 概要

- これまで廃棄されていた規格外のホヤ等の水産物を買取り、障害者が一次加工の殻剥きを行い商品化につなげることで、障害者の活躍の場を作り、工賃及び賃金の向上に取り組んでいます。
- 雇用を1つ目のゴールと捉え、雇用を前提とした実習やトライアル雇用制度を活用して、チャレンジする機会を提供しています。
- ホヤだけでなく、カキ、ウニ、ホタテ等も取り扱い、環境問題や再利用課題の解決に取り組んでいます。

## 成果

### 人を耕す

障害者を6名雇用し、16名の施設外就労を受け入れています。作業場の8～9割を障害者が支えており、地域にとって必要な労働力となっています。

### 地域を耕す

廃棄されるはずだった160トンの近いホヤを流通させ、他漁協の規格外品も請け負うことで流通量が拡大するなど、新たな産業モデルの可能性を圏域に提示しています。

### 未来を耕す

水福連携のモデルとして、他の水産地域からもアドバイスを求められる機会が増え、新たな連携が生まれています。

# 一般社団法人 イシノマキ・ファーム

(宮城県石巻市)



困難を抱える若者への就労支援を中心とするソーシャルファームを理念とし、農業の担い手育成に取り組むとともに、また、社会的弱者や生きづらさを抱えている若者に向けた自立支援を行っています。

## 概要

- ソーシャルファームでのホップ栽培、野菜生産のほか、ビールの醸造等の活動を行っており、社会的弱者の雇用創出につなげています。
- 農業担い手センターを通じて、社会的弱者の自立支援を含めた農業就職支援も実施しています。
- 連携サポーター養成事業を実施し、持続的な障害者雇用のためのサポーターを育成しています。

## 成果

### 人を耕す

中間的就労支援に参加する利用者が135名(2021年)おり、農作業を行うことで、利用者の就労意欲の向上につなげています。

### 地域を耕す

地域農家で短期アルバイトとして就労訓練を実施することが、小規模農家の担い手不足解消につながっており、地域住民とのコミュニティが活発になることで、高齢農家の生きがいがいづくりになるなど、地域活性化に貢献しています。

### 未来を耕す

ソーシャルファームとしてのホップ栽培や野菜の生産、ビール醸造等の活動により、持続可能な地域共生社会づくりに貢献しています。

# 株式会社 八天堂ファーム

(広島県三原市)



「良い品、良い人、良い社会づくり」の理念のもと、障害者をはじめとする  
 就労困難者を支援する公益ソーシャルカンパニーとしての存在価値向上を目指しています。

## 概要

- 後継者不在となったぶどう園を受け継ぎ、社会福祉法人宗越福祉会と連携し、生活困窮者(障害者を含む)の自立支援を目的とした農福連携型就労訓練事業をスタートし、2022年現在は4名の生活困窮者(うち1名は障害者)に常時農作業を依頼しています。
- 就労環境の拡大を目指すため、小学校跡地を利活用し、完全雇用型のソーシャルファーム設置に向けて取り組んでいます。
- 約0.8畝のぶどう園で農福連携によって収穫されたぶどうについて2022年7月にノウフクJASの認証を取得しています。
- 地元高校生の課外学習でのほ場体験や、特別支援学校と連携したぶどう栽培に関する情報交換や商品開発を行っています。また、地元大学や専門学校の学生が職場体験を行うなど、学生の実習の場を提供しています。
- 生活困窮者、障害者等にやりがいを持って働ける場を提供するだけでなく、経済的な自立支援へつなげていくために、農福連携により生産した作物を加工することで付加価値をつけ、通常の流通経路ではない新たなマーケットで販売を実践しています。

## 成果

### 人を耕す

農場で働く宗越福祉会の利用者には広島県の最低賃金を上回る930円/時を支払っています。また、障害者のみならず、生活困窮者も一緒に働くことで、立場が違う人々が互いに助け合いながら仕事ができる環境を創出しています。

### 地域を耕す

遊休農地であった約0.8畝のぶどう園を引き継ぐなど、地域農業の維持・発展に寄与するとともに、地域企業や特別支援学校、高校、大学等とも連携し、地域活性化に貢献しています。

### 未来を耕す

ノウフクJASの取得や、全国の農福連携産品を取り扱うECサイトの構築、全国の農福連携に取り組む生産者と連携した商品開発等、ノウフク商品に対する付加価値の向上を図っています。

# 大隅半島ノウフクコンソーシアム

(鹿児島県大隅半島)



大隅地域で農福連携を実践している団体を結び付けるプラットフォームとして、2021年に設立し、コンソーシアム会員の農産物の付加価値向上、販売力強化等に取り組んでいます。

## 概要

- 2021年度は、会員各々の取組における課題と情報を共有し、相互連携・協力のもと、現取組の深化や拡大に向けた活動を、外部専門家や支援機関の協力を得て実施しました。
- 2022年度は、会員事業所及び支援機関、行政、アドバイザーと連携を図りながら、各種研修会や先進事例調査を行う一方、新たな取組としてノウフクJAS取得に向けた活動などを通じて農産物の付加価値向上・販売力強化に取り組むほか、コンソーシアム内での共同栽培やお試しノウフク、マッチング活動等を行っています。

## 成果

### 人を耕す

お試しノウフクや共同農場の試験的な運営が、障害者だけではなく生活困窮者等の就農のきっかけづくりや、担い手不足の過疎地への援農、農福連携による就労の機会になっています。

### 地域を耕す

会員間で新たに施設外就労契約が結ばれたり、会員同士のビジネスが生まれたり、地域の農林水産業の維持・発展に貢献しています。

### 未来を耕す

廃棄されている「小さいも」をコンソーシアム全体で収穫し、販売する「フードロスノウフク」を実施することで、福祉事業所の選択肢が増え、小さいもの商品化と販路開拓、子ども食堂での活用等、多様なつながりを創出しています。

# 社会福祉法人 みやこ福祉会

(沖縄県宮古島市)



通年で葉物野菜を水耕栽培し、離島における野菜の安定生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現しています。

## 概要

- 就労継続支援A型事業所「野菜ランドみやこ」では、夏場でのほうれんそうが栽培できるシステムを導入し、周年で安定した野菜生産を実施することで、障害者の安定雇用を実現しています。
- 作業行程ごとに視覚的に理解できる写真パネルを利用したり、誰でも簡単に作業できる道具を活用する等、障害のある方が安全に効率よく作業できるよう工夫しています。
- 規格外の野菜は、2018年に開設したグループ内のB型事業所「レストラン太平山」で食材として提供し、レストランでは、就労訓練の様子が見えるようにすることで、地域交流や啓発の場として活用しています。
- 大玉トマトを栽培していたB型事業所では、コロナ禍での需要減少を踏まえ、2021年から贈答用としての需要もあり付加価値の高いメロン栽培に切り替えて栽培を開始しています。

## 成果

### 人を耕す

LED照明やソーラーパネル導入による低コスト栽培により収益を伸ばし、周年栽培による年間を通じた作業を創出することで、全国平均を上回る賃金・工賃を実現しています。

### 地域を耕す

夏場の暑さの影響による減収や、荒天による船の欠航時等は、宮古島内の葉物野菜が不足していましたが、周年を通じて安定した野菜を供給できる体制を整備することで、地域を支える存在となっています。

### 未来を耕す

地域や法人で生産している野菜を使った料理を提供するレストランを開設し、地域交流の場を生み出すことで、普段障害者の方と触れあう機会のない地域住民の障害者への理解が深まるなど、多様性のある地域づくりに貢献しています。

## 審査員紹介



中嶋 康博

東京大学大学院  
農学生命科学研究科 教授



濱田 健司

東海大学 文理融合学部 教授



松森 果林

ユニバーサルデザイン  
アドバイザー



村木 厚子

津田塾大学  
総合政策学部 客員教授



米田 雅子

東京工業大学  
環境・社会理工学院特任教授

## お問い合わせ

### 農福連携等応援コンソーシアム事務局

- 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話 03-3502-8111 (内線5448)

メール noufuku@maff.go.jp

- 一般社団法人日本基金

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-4 大京ビル松住町別館401号

電話 03-5295-0070 FAX 03-6206-0117

メール info@nipponkikin.org

# 農福連携等応援コンソーシアム

## 設立の経緯

2019年6月に農福連携等推進会議（議長：内閣官房長官）において決定された「農福連携等推進ビジョン」に提起されている課題の1つ「農福連携が広がっていない」に対応するため、2020年3月に農福連携を全国的に広く展開させ、各地域において農福連携が定着していくことを目指して「農福連携等応援コンソーシアム」が設立されました。

このコンソーシアムは、全国初の官民連携ノウフク応援団として、国・地方公共団体、関係団体等や、経済界や消費者、さらには学識経験者等の様々な関係者を巻き込んで、国民的運動として農福連携等を応援する取り組みであり、2023年2月現在、約460の企業・団体の方が「ノウフク」の活動趣旨にご賛同いただき、活動の幅を広げています。

## 農福連携等応援コンソーシアムへの参加

コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、当コンソーシアムの趣旨に御賛同いただき、参加いただける企業や団体の方の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会に取組の輪の拡大に向けて、企業や団体の皆様の入会をお待ちしています。

## 入会方法

**コンソーシアムに関する詳細は、ノウフクWEBをご覧ください。**

コンソーシアムへの入会をご希望される団体や企業の方は農福連携等応援コンソーシアム規約に同意いただき、以下申込書に必要事項を記入の上、農林水産省農村振興局都市農村交流課 農福連携等応援コンソーシアム事務局までお申し込みください。幹事会の承認を得て、コンソーシアムにご入会いただくことができます。

ノウフクWEBの「会員専用ページ」では、ノウフク・ロゴマークの使用申請、総会の資料やノウフク・ラボの成果等をご覧いただけます。ここにしかない情報や講演の動画など内容を充実してまいります。

●農福連携等応援コンソーシアムについて

[https:// noufuku.jp / consortium](https://noufuku.jp/consortium)



農福連携等応援コンソーシアムの規約、入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードいただけます。